



2019 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 (SUPER FORMULA 2019)

第 6 戦:岡山国際サーキット (岡山県美作市)

レース報告書

予選: 9 月 28 日 (土)

天候	曇り時々晴れ	
観客動員数	6,700 人	
成績	アレックス・パロウ 選手 (#64) :	8 位
	牧野 任祐 選手 (#65) :	7 位

決勝: 9 月 29 日 (日)

天候	晴れ時々曇り	
観客動員数	11,000 人	
成績	アレックス・パロウ 選手 (#64) :	4 位
	牧野 任祐 選手 (#65) :	17 位

<予選レポート>

残り 2 レースとなった今シーズン。TCS NAKAJIMA RACING は、前戦から 1 ヶ月以上のインターバルを挟み、岡山国際サーキットで開催される第 6 戦に臨みます。

アレックス・パロウ選手(64 号車)は 2 戦連続でポールポジションを獲得して波に乗るなか、今大会の予選ポジションに注目を集めます。開幕戦で劇的なポールポジションを獲得した牧野任祐選手(65 号車)も結果にこそ恵まれていないものの、一環して速さを見せており、今大会で 2 台揃っての上位フィニッシュに期待が高まります。

雨天の天気予報が外れ、晴天の下、ドライコンディションで行われた公式予選。気温 30℃、路面温度 34℃と夏が戻ってきたような気候の中、まず Q1 は、それぞれパロウ選手は 4 番手、牧野選手は 6 番手で Q2 へ進出します。続く Q2 では、パロウ選手は 8 番手、牧野選手は 6 番手で通過し、いよいよ Q3 へ。

Q3 ではそれぞれ 1 アタックに賭け、結果、パロウ選手は 8 番グリッド、牧野選手は 7 番グリッドが確定しました。

<コメント>

中嶋 悟 総監督:

「2 台揃って Q3 に出走できたことはよかったです。特にミスはありませんでしたが、ライバル勢のタイムにはおよびませんでした。本番のプランをしっかりと立ててレースに臨みます」

アレックス・パロウ 選手:

"I had a really good feeling in Qualifying, but for some reasons I was in P8. Good thing is that we went to Q3 and we are in front of the top 2 in the championship. If it rains tomorrow, we will have a good chance, so we will fight for the victory."

「予選では本当にいいフィーリングだったのですが、なんらかの理由で 8 番手になりました。幸い Q3 に進出できましたし、ポイントランキングのトップ 2 台の前にグリッドを獲得できました。明日、雨が降ればかなりチャンスがあるので、勝利に向けて頑張ります」

牧野 任祐 選手:

「朝のフリー走行ではソフトタイヤの感触がよく、予選に向けた唯一の不安はミディアムタイヤを使用していなかったことでしたが、Q1はミディアムでかろうじて次に進出できました。Q2、Q3での感触は悪くありませんでしたが、ライバルが速かったです。今できる限りのことを尽くした結果なので、明日も頑張ります」

<決勝ハイライト>

決勝日も晴天に恵まれました。気温は30℃を超え、汗ばむ陽気となりました。朝のフリー走行でパロウ選手は2番手、牧野選手は5番手タイムとなります。順調に確認作業を続け、68週の決勝レースを迎えます。

今回の決勝レースでは、オープニングから10周を終えるまでタイヤ交換義務のカウントはしないという新ルールが追加されたことで、各チームの作戦が分かれることが予想されます。

8番グリッドからスタートを切ったパロウ選手は、ミディアムタイヤでスタートし、オープニングラップでソフトタイヤ装着のマシンにパスされ12番手に。その後、7周目にコースオフをしたマシンがあり、セーフティーカーが導入されます。10周を待つかたちで10周目の牧野選手に続いてピットインし、ソフトタイヤに交換。11番手で周回を続けていきます。半分の34周が終わる頃、前を走る1台にアクシデントが発生したことで1つポジションを上げ10番手に。その後も少しずつ順位を上げるものの、膠着状態が続き、50周を迎える頃に90分間のタイムレース制が宣言されたこともあり、タイヤ交換義務を消化していない上位マシンが続々とピットインします。これによってパロウ選手は一気に4番手に浮上し、チェッカー。5ポイントを獲得しました。

一方、7番手スタートの牧野選手もミディアムタイヤでスタート、同じくオープニングラップで10番手まで順位を落とします。牧野選手も10周を待つセーフティーカーランが続く中、10周目でピットイン、ソフトタイヤに交換してピットアウトしますが、ピットレーンで他車との接触があり、タイヤに損傷を負ってしまいます。再びピットインを行いタイヤを交換し、コースに復帰した牧野選手はトップと遜色ないペースで周回していきませんが、アンセーフ・リリースに対するドライブスルー・ペナルティを課され、18番手にポジションを下げます。ペースは速かったものの、オーバーテイクできず、17位でフィニッシュとなりました。

<コメント>

中嶋 悟 総監督:

「牧野はレースペースがよかったにもかかわらず、ピットを離れる際の他車との接触でタイヤを傷め、すべてが狂ってしまいました。トップに遜色ないペースで走っていただけに非常に残念です。パロウについては、同時2台ピットになったことで後続になり、ドロップしてしまったことが痛かったですが、ポイントは獲得できたので、次に繋がればと思います。とにかく次戦が今シーズン最後のレースになります。この1年の集大成を見せるレースにしていい締めくくりをしたいです。今回もたくさんのご声援をありがとうございました」

アレックス・パロウ 選手:

"It was a difficult weekend. We had a really strong car, and the only problem we had was not to be able to overtake, because it is really difficult to follow cars and lose so much downforce at Okayama. I am happy to finish P4, which got us closer to championship points, and if we win Suzuka, we can win the championship, so we will try to work hard to get the championship."

「難しいレースでした。とても強い車でしたが、唯一の問題はオーバーテイクできなかったことです。というのも岡山では前の車についていくのが難しく、ダウンフォースを失ってしまうからです。結果としては、4位でフィニッシュできて嬉しいです。ランキングトップのポイントに近づきましたし、鈴鹿で勝てば、シーズンチャンピオンを獲得できます。チャンピオン獲得を目指して頑張ります」

牧野 任祐 選手:

「ミディアムタイヤのスタートで前半は厳しかったのですが、セーフティーカーが入っていい方向に向かったと思いました。ただ、ピットアウト時の混乱が残念でした。クリアラップで走っている時のペースはトップと遜色なかったもので、最終戦は気持ちよく終われるよう、頑張ります」



※次戦(2019年シーズン最終戦)は10月26日～27日に鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)で行われます。

以上